

③ A、B、Cの比較

	性能	運用性	信頼性	
			データ保護	サーバ冗長化
A	△	△	△	△
	電子証明書の発行性能の確保に重点をおいた構成	ネットワーク管理、セキュリティ管理については、下記サーバを導入することにより、当該範囲の運用管理が体系的に対処が可能 ・ネットワーク管理サーバ ・セキュリティ管理サーバ	・OS、プログラム（共有ディスクを使用しないサーバはデータ含む）を保護するための機能を導入（ソフトウェアRAID1） 対象：全サーバ ・データを保護するための機能を導入（共有ディスクによるRAID5） 対象：認証局サーバ、認証局受付サーバ、リモートサーバ（マスク）	性能面により、複数台を導入（結果的に冗長化） 対象：官職証明書検証サーバ、情報提供サーバ（インターネット向け）
B	△	○	○	△
	Aと同等です。	Aに、下記の運用サーバが追加され、警報管理、バックアップ処理、失効リスト作成、バックアップ処理が体系的に対処が可能。 ・統合管理/ダッシュボード管理サーバ ・バックアップ管理サーバ	Aに、さらに安全なデータ保護機能を追加。（共有ディスクでのRAID1（ミラーリング））、テープライブラリ装置を追加 共有ディスクのRAID1により、サービス停止なしに、テープライブラリへのバックアップが可能 対象：認証局サーバ、認証局受付サーバ、リモートサーバ（マスク）	Aと同等
C	○	○	○	○
	相当程度の利用者の累積を想定し、検証機能を強化 ・リモート（LAWAN向け、インターネット向け） ・OCSPレスポンス（LAWAN向け、インターネット向け）	Bと同等	Bと同等	冗長化の範囲を下記に拡大 対象：認証局サーバ、認証局受付サーバ、住基連携サーバ、リモートサーバ、OCSPレスポンス、官職証明書検証サーバ、おろし窓サーバ、情報提供サーバ、バックアップ管理サーバ